

滅びる文明と滅びない文明 ～持続する社会とは～

●「文明崩壊 ～滅亡と存続の運命を分けるもの～」(上巻/下巻)

ジャレド・ダイヤモンド/草思社文庫

上巻では中米のマヤ、北米のアナサジ、東ポリネシアのイースター島、グリーンランドのノルウェー人入植地、かつて隆盛を極めていた社会の文明崩壊の実例を検証し、古代、中世社会が辿った滅亡への道を解明する。下巻では危機に適確に対処し、乗り越え成功した社会例として、徳川幕府の育林政策で森林再生を果たした江戸時代の日本、過酷な人口制限で社会のバランスを保つティコピア島等を検証する。さらに現代の危機として、中国やオーストラリアの惨状を分析し、崩壊を免れる道をさぐる。資源、環境、人口、経済格差など複雑化する崩壊の因子を探り、現代人の目指すべき方向を呈示する。



目次(上巻)

プロローグ ふたつの農場物語

モンタナとグリーンランドーふたつの農場 17

過去に消滅した数々の社会 20
環境問題をめぐる差別と過去賛美 29
崩壊を招く五つの要因 33
わたしの立場ー環境保護とビジネス 42
異なる社会の比較研究法 45
本書の構成 49
第1部 現代のモンタナ 57
第1章 モンタナの天空の下
モンタナのマス釣り 59
“天空の国”で過ごした夏 62
大自然と環境被害ーモンタナの矛盾 66
狩猟採集から娯楽産業へ 70
鉱業が生み出す有毒廃棄物 75
皆伐方式がもたらす森林破壊 86
塩類による土地被害 98
地球温暖化による水不足 103
外来生物種による被害 112
貧困と富裕の分極化 116
入植初期から続くライフスタイル 132
州議員が語るヴァレーの将来 137
土地開発業者の言い分 141
酪農家の「制御できないリスク」 145
三十年前のままの美しい自然 150
“世界のモデル”としてのモンタナ 153

第2部 過去の社会 157**第2章 イースターに黄昏が訪れるとき**

巨石像をめぐる数々の謎 159
イースター島の地理と歴史 168
岩石を使った集約農法 181
民族間抗争から統合へ 188
石像(モアイ)と台座(アフ)の謎 192
モアイはいかにして運ばれたか? 201
かつては亜熱帯性雨林の島 207
食料動物種の絶滅と森林破壊 211
倒されるモアイーイースター社会の崩壊 217

ヨーロッパによる搾取と虐待 226

森林破壊を促す九つの要素 232

“孤立した地球”のメタファー 240

第3章 最後に生き残った人々

ービトケアン島とヘンダーソン島

バウンティ号の叛乱者たちが見たもの 243

条件のまったく違う三島 246

交易によって存続した三島 256

ドラマの終わりー交易を絶たれた二島 265

第4章 古の人々

ーアナサジ族とその隣人たち

砂漠の農夫たち 274

年輪年代法が歴史を再現 278

農業戦略ー水の確保をめぐる 282

モリネズミとチャコ峡谷の環境問題 288

地域統合ー外郭集落と中心地チャコ 297

衰退と終焉 303

遺跡が語るものー持続可能性の問題 310

第5章 マヤの崩壊

消えた都市の謎 315

マヤの環境ー北部と南部の水対策 321

農法と食糧供給 325

「長期暦」で刻まれたマヤの歴史 332

コパンの谷ー森林伐採と土地浸食 338

複合崩壊 342

戦争と旱魃 345

南部低地の崩壊 350

マヤ崩壊が語るもの 353

第6章 ヴァイキングの序曲とつい遁走曲

大西洋上の実験 357

ヴァイキングの勃興 362

自己触媒作用ー略奪・富・勢力拡大 370

農夫としてのヴァイキング 374

鉄器製造のための莫大な樹木 378

首長たちの提携と抗争 379

キリスト教への改宗と自己意識 381

六つの植民地の存続と滅亡 386

火山・氷・水・風ーアイスランドの環境 393

土地管理ー失敗の歴史 399

アイスランドとほかの入植地の違い 407

ヴィンランドー短期間で滅んだ辺境の国 411

第7章 ノルウェー領グリーンランドの開花

ヨーロッパの辺境 423

グリーンランドの現在の気候 428

一時的な温暖期 433

在来の動植物種 441

ノルウェー人入植地 443

牧畜を糧とする農場運営 445

魚を食べなかった狩猟民 454

複雑に統合された経済 462

暴力的な階層社会 470

ヨーロッパとの交易 480

ヨーロッパ人としての自己認識 486

第8章 ノルウェー領グリーンランドの終焉

終焉への序章 495

鉄不足が招いた森林破壊 496

土壌と芝生へのダメージ 504

イヌイットの先人「ドーセット」 510

北極を生き抜いたイヌイット 514

イヌイットに対する“悪しき態度” 522

終焉ー入植地の消滅 532

終焉を招いた真の理由 545

プロローグ ふたつの農場物語

崩壊を招く五つの要因 33

ひとつの社会の崩壊が環境被害というただひとつの原因からもたらされた例を、私は知らない。そこには必ず、別のいくつかの要因が存在する。潜在的な要因を5つの要因にまとめてみた。そのうち4つー環境被害、気候変動、近

隣の敵対集団、友好的な取引相手—は、個々の社会によって重要性が高かったり低かったりする。5 つ目—環境問題への社会の対応—は、その社会においても重大な要素となる。■環境の資産特性は、脆弱性もしくは復元力とも言い換えられ、ある地域の森林、土壌、魚介数など、個々の項目についてそれぞれ脆弱性や復元力を算定することができる。特定の社会だけが環境の崩壊に見舞われる理由のなかには、原則的に、住民の並はずれた無思慮か、環境のある側面の並はずれた脆弱性か、あるいはその両方が含まれるものと思われる。■気候は、人間とは何の関係もない自然の力の変化によって、月ごとに、年ごとに、暑くなったり寒くなったり、湿ったり乾いたり、さまざまに大きく小さく揺れ動くものだ。そういう自然の力のなかには、太陽熱の変化、大気に塵を撒き散らす火山の噴火、地球の軌道に対する地軸の傾きの変化、地球表面における陸と海の配分の変化などがある。歴史上の多くの事例を見ると、環境資源を使い果たしつつある社会は、気候が好適であれば損失を吸収できるが、暑くなったり、寒くなったり、雨が多くなったり、少なくなったり不順になったりすると、崩壊の崖つ縁を越えてしまうようだ。その崩壊が人為的な環境被害によるものだと、あるいは気候変動によるものだと、どちらかを単一の原因と決めるのは、正しくない。いずれかの要素単独でなく環境被害と気候変動が組み合わさったことが致命的だったのだ。■歴史上の社会のほぼすべてが、地理的に近い他の社会をかかえ、少なくともなんらかの接触を持ってきた。社会に力があるあいだは、敵を退けることができるが、なんらかの理由でその力が弱まれば、敵に屈することになる。なんらかの理由には、環境被害も含まれる。崩壊の近因は軍事的な制圧になるとしても、究極の原因は弱体化を招いた要素に求めるべきだろう。生態学的な、もしくは他の理由による崩壊が、しばしば軍事的敗北の体裁をとるということだ。■歴史上の社会のほぼすべてが、近くに敵をかかえるのと同様、友好的な交易の相手をかかえている。その相手は敵と同一の集団であり、相互の関係は敵対と友好のあいだを揺れ動く。大半の社会は、必需物資の輸入という形で、もしくは集団を束ねるための文化的な絆という形で、近隣の友好的な社会にある程度まで依存している。交易相手が何らかの理由で弱体化して、必需物資や文化的な絆を供給できなくなると、結果的に当の社会も弱体化しかねないというリスクが生じる。■社会が異なれば、同じ問題への対応も異なる。過去多くの社会で森林破壊の問題が発生し、高地ニューギニア、日本、ティコピア島、トンガは森林の管理に成功して、繁栄を続けたが、イースター島、マンガレヴァ島、ノルウェー領グリーンランドは有効な管理策を施せず、結果として崩壊した。社会の対応は、その政治的、経済的、社会的な制度や、文化的価値観によって異なる。社会が問題を解決できるかどうかは、制度や価値観しだいということだ。

2 章 イースターに黄昏が訪れるとき

かつては亜熱帯性雨林の島 207

まだ人間が渡来する前の数 10 万年のあいだ、さらには入植されてからしばらく、イースターは不毛の荒地ではなく、背の高い樹木と低木の茂みから成る亜熱帯性雨林の島だった。イースター島のヤシは、チリサケヤシでさえ敵わない世界最大のヤシだった。チリサケヤシは、その名が示すとおり、幹から採れる甘い樹液を発酵させてワインを造ったり、煮詰めて蜜や砂糖を作ったりする。実の中心には油を含む“仁”があり、珍味とされる。葉のほうは住居の屋根葺き、籠類、敷物、船の帆などに最適の材料となる。忘れてならないのが、丈夫な幹だ。イースター島でも、モアイの運搬と設置、おそらく筏の制作にも役立っていただろう。

食料動物種の絶滅と森林破壊 211

イースター島に初めて人間が上陸し、初めて住み着いた場所は、おそらくアナケナ海岸だと考えられる。ここにあった貝塚から鳥の骨、その他の脊椎動物の骨を発掘。鳥がまったく現存しないイースター島に、かつては少なくとも 6 種類の鳥が生息していたことを立証できた。鳥たちがイースター島に集まったのは、この島が辺境にあって、人間が渡来するまで捕食者がまったく存在せず、繁殖には理想的な危険からの待避所だったからだ。アシカの骨もいくつか発見している。イースター島初期の入植者たちは、ネズミルカ、魚類、甲殻類、鳥類、ネズミ、アシカ、ウミガメ、大型のトカゲも食用にしていた。当初は豊富だった食料資源だったが、陸鳥は乱獲、森林破壊、ネズミによる捕食などの要因が重なって全種が全滅した。甲殻類も過剰に採取され、貴重だった大型のタカラガイが減り、小さな巻貝が増えていった。巨大ヤシをはじめ、今は姿を消した数々の樹木が絶滅した理由は 6 つある。火葬に大量の燃料が消費されていたこと。作物栽培用の畑を造るために樹木が切り払われた。航海に耐えるカヌーの材料として大型の樹木が切り倒された。樹木から得られる木材と縄が、石像の運搬と設置をはじめ、多目的に利用された。たまたま島に入り込んだネズミたちも、ヤシはもちろん、ほかの樹木も必ず“利用”していたはずだ。■森林破壊は 900 年以前に人間が定住したあと、どこかの時点で始まり、1722 年までに、つまり、3 メートルを超す樹木が 1 本も見つからなかった時点までに終了したはずだ。ヤシは 1400 年ごろまでに姿を消し、のちに農業の痕跡から人間が存在し続けたにもかかわらず、森林開拓に由来する木炭は 1440 年ごろに消えている。森林破壊は人間の定住する 1400 年ごろに最盛期を迎え、15 世紀初頭から 17 世紀に終了している。

森林破壊を促す九つの要素 232

なぜイースター島が森林破壊の極端な事例という地位を獲得するに至ったのか。森林破壊の激しさが増すのは—湿潤な、島より乾燥した島・赤道付近の温暖な島より、高緯度にある寒冷な島・新しい火山島より、古い火山島・火山灰が大気中を下降する島より、下降しない島・中央アジアの送風ダスト(黄砂)に近い島より、遠い島・マカテアのある島より、ない島・高い島より、低い島・近隣関係のある島より、ない島・大きい島より、小さい島この 9 つの

物理的な変動要素は、すべて森林破壊の現状に反映されている。■最も重要なふたつが、降雨量と緯度のばらつきだ。乾燥した島と、赤道から離れている寒冷な島は、赤道付近の湿潤な島より最終的に森林破壊の度合いが大きくなる。ニューギニアの低地のように、湿潤かつ高温な場所であれば、木を切り倒しても1年以内に6メートルの新しい木が生えるが、寒冷で乾燥した荒地では、木の生長ははるかに遅い。湿潤かつ高温な場所では、適度な割合で木を切り倒していれば、その速度に合わせる形で木が再生するので、常に広く樹木に覆われた状態が保たれる。■3つの変動要素—島の年代、火山灰の降下、送風ダスト—100 万年以上なんの火山活動もされなかった古い島は、近年火山活動があった島より、森林破壊の度合いが大きくなる。新しい溶岩と灰から派生した土壌には植物の生長に欠かせない養分が含まれていて、古い島ではこの養分が雨によって徐々に浸出してしまふからだ。太平洋は、安山岩線と呼ばれる海溝で二分されている。安山岩線の東側の位置し、なおかつ中央アジアの送風ダストから遠く離れた島々では、安山岩線の西側にある島々や、もっとアジアに近い島々と比べて、森林破壊の度合いが高くなる。もうひとつ、考慮すべき変動要素は、マカテアとして知られる岩石からなる6つほどの島々にのみ該当する。マカテア地帯は、歩くにはこの世で最悪の場所と言えるだろう。深い亀裂のある鋭利な珊瑚が、足やブーツを切り、手をぼろぼろにする。マカテアからなる太平洋の島々が、森林破壊の度合いが低くなったと知っても意外に思わないだろう。■残った3つの変動要素、海拔、隔たり、面積には、さらに複雑な作用がある。海拔の高い島は、海拔の低い島に比べて森林破壊の度合いが低くなりやすい。山地で発生する雲と雨が、川のように低地に向かって流れながら、水分を与え、不足した養分を補充し、大気中の砂塵粒子を運んで、低地の植物の生長を促すからだ。隔絶した島のほうが近隣関係のある島より森林破壊の度合いが高くなったのは、おそらく、交易や襲撃や植民を目的としてほかの島へ出向くのには時間と労力を費やすより、自分たちの島にとどまって、島の環境を損なうような行動に従事しがちだったせいだ。小さな島より大きな島のほうが森林破壊が進みにくい理由は数多くある。島の面積に対する外周距離の比率が低い方が、住民ひとり当たりの海洋資源は少なく、人口密度は低くなり森林を切り倒すまでに年数がかかって、耕作に不向きな土地の面積が多く残る。■森林破壊への傾向を示すこの9つの変動要素を物差しにすると、イースター島は、緯度は3番目に高く、降雨量は少ない方に属し、火山灰の降下とアジアからの送風ダストは最低値で、マカテアは存在せず、近隣の島からの距離は2番目に遠く、81島のうち、最も海拔が低く、最も小さな島のひとつに数えられる。



目次(下巻)

第2部 過去の社会(承前)— 15

第9章 存続への二本の道筋

環境問題解決のふたつの道 17

ニューギニア高地

—数万年にわたる社会の維持 22

ティコピア島—社会と環境のコントロール 33

森林資源の損なわれた江戸時代の日本 48

徳川幕府の解決策 58

なぜ日本社会は崩壊しなかったのか? 66

成功を収めた社会の例 70

第3部 現代の社会—75

第10章 アフリカの人口危機

—ルワンダの大虐殺

人口爆発という難題 77

ルワンダの大虐殺 81

「民族間の憎悪」以外の理由 88

カナマ社会の土地争い 92

フツ族同士で起こった殺戮 103

殺戮はなぜ起こったのか? 105

第11章 ひとつの島、ふたつの国民、ふ

たつの歴史—ドミニカ共和国とハイチ

対照的なドミニカとハイチ 111

歴史—植民地時代から現代化まで 118

相違を生み出した要因 129

ドミニカ共和国の環境対策 133

バラゲール大統領の真意 140

環境問題と自然保護の現在 147

ドミニカ共和国とハイチの将来 152

第12章 揺れ動く巨人、中国

中国の重要性 162

中国経済と環境問題 164

大気、水質、土壌の汚染 170

在来種を脅かす外来種と巨大ダム 174

環境と人間への影響 179

他国への影響 181

中国の未来—環境破壊と環境保護 189

第13章 搾取されるオーストラリア

オーストラリアの重要性—資源の搾取 198

最も非生産的な大陸 202

予想不可能な降雨量 209

他国からの距離の問題 212

歴史—入植者と先住民 216

価値観の輸入 220

貿易と移民 231

土地の劣化 236

その他の環境問題

—林業、漁業、淡水、外来種 247

希望と変化の兆し 256

第4部 将来に向けて—269

第14章 社会が破滅的な決断を下すのはなぜか?

正しい意思決定へのロードマップ 271

環境問題の予期 275

環境問題の感知 280

合理的かつ非道徳的な行動 285

環境被害に結びつく価値観 294

非合理的行動が生み出す失敗 298

失敗に終わる解決策 302

希望の兆し

—失敗の原因を理解すること 305

第15章 大企業と環境

—異なる条件、異なる結果

資源は誰のものか? 312

ふたつの油田地帯 314

石油会社による環境保護 320

鉱業がもたらす環境破壊と汚染 332

鉱業会社による環境対策 343

企業間で異なる環境への取り組み 350

林業がかかえる問題 360

森林管理協議会の成果 367

海洋漁業と環境問題 378

企業と公共性—一般市民はどう関わるか? 384

第16章 世界はひとつの干拓地

とりわけ深刻な“十二の環境問題” 390

問題解決と社会の持続可能性 409

ロサンゼルス生活と環境問題 412

反論への反論—問題から目をそむける数

数の定説の検証 421

過去と現在—その相違と相似 441

希望の根拠—慎重な楽観主義者として 454

追記 アンコールの興亡

アンコールをめぐる謎 464

アンコールを取り巻く自然環境 467

クメール帝国の隆盛 471

広大な古代都市に関する記述 475

壮大な治水システム 480

アンコールの崩壊を招いたもの 483

第9章 存続への二本の道筋（下巻）

ニューギニア高地—数万年にわたる社会の維持 22

ボトムアップ方式が世界でも最大の成功を収めたニューギニア高地。ニューギニアでは、約4万6千年前から人々が自立した生活を営んできた。最近になるまで、外の社会から経済的に重要な物資が流入することなく、高い身分のシンボルとしてのみ珍重される貿易品目（タカラガイの貝殻やゴクラクチョウの羽など）以外は、どのような物資も受け入れていなかった。ニューギニアは、ほとんど赤道直下に位置しており、低地は熱帯雨林に覆われているが、険しい内陸部には山と谷が交互に連なって氷河を冠する海拔5千メートルの山脈を成している。タロイモ、バナナ、ヤマイモ、サトウキビ、サツマイモの4種の主要作物は、ニューギニアが独自に栽培品種化したものであり、ニューギニア高地は、植物の栽培品種化を独自に成し遂げた世界に9カ所しかない中心地のひとつで、世界屈指の長期間にわたって持続可能な食糧生産を実践している。■彼らの農法は洗練されている。年間最大1万ミリもの降雨量があり、地震や地すべりや霜が頻繁に襲う地域で作物を育てるために、数千年の時を費やして試行錯誤を重ねてきたのだ。じゅうぶんな食糧生産のために休耕期間の短縮や連作さえ不可欠な人口過密地域では、地力の維持を目的としてありとあらゆる技術が駆使され、育林も行われた。■ニューギニア高地での持続的な農業は、地力の劣化だけでなく、木の供給不足という厄介な問題を引き起こしている。菜園や村を造るために森林を切り開いたせいだ。高地では、樹木に依存する生活が営まれてきた。木材で家と柵を建て、木片で工具や家庭用品や武器を作り、薪で料理したり寒い夜には小屋を暖めたりした。もともと、高地はオークやブナの森に覆われていたが、数千年にわたって菜園づくりが行われた結果、最も人口の稠密な地域では、海拔2千5百メートル付近まで完全に樹木が伐採されてしまった。■私は、高地を訪れた最初の日に、すでに村や菜園で木立を成すモクマオウ属の1種を目にした。“鉄木”とも呼ばれるモクマオウ属は、松に似た葉を持つ樹木の1群で、たやすく分割できて非常に堅い木材になるので、現在では世界各地に導入されている。ニューギニア高地原産種であるモクマオウは、数百万人の高地の民が、溪流の土手沿いに自生する若木を移植して、大規模に栽培している種だ。この習慣は、従来の農業における作物の栽培になぞらえて“育林”と呼ばれている。この種は、生長が速い。木材や薪にたいへん適している。窒素を固定する根粒と、おびただしい落葉が、土壤に窒素と炭素の両方を添加する。耕作中の菜園のところに植えられたモクマオウは土壤の肥沃度を増し、休耕中の菜園に植えられたモクマオウは地力を回復させて、新たに作物を栽培できるまでの休閑期を短縮する。根は急斜面の土を保持するので、浸食を防ぐ。こうして、元の森林が完全に切り開かれた広大な谷間であるにもかかわらず、モクマオウの育林によって、木に依存する社会の繁栄が維持されている。

森林資源の損なわれた江戸時代の日本 48

日本は、トップダウン方式の森林管理を発展させていたことがわかっている。先進国の中で最も人口密度が高く、日本全体では1万平方マイルあたり千人、農地では1万平方マイル当たり5千人が住んでいる。これほど過密な人口をかかえながら、日本の面積の80パーセント近くは、人口がまばらで森林に覆われた山々から成り、ほとんどの国民と農民は、国土のたった5分の1に当たる平野に押し込められている。国内の森林は、非常によく保護され、管理されているので、木材の貴重な供給源として利用され続けながらも、範囲をさらに広げつつある。見たところ原生林に似ているが、実際には、日本の利用可能な原始の森は3百年前にほとんど切り開かれてしまい、再生林と植林地に置き換えられて、細部まできびしく管理されている。■日本の森林政策は平和と繁栄によって逆説的にもたらされた環境及び人口の危機に対応する目的で生まれた。1467年からほぼ150年の間、戦国時代の動乱が続いた。戦国時代の終わりから1世紀のうちに、さまざまな要因が重なり合って、江戸は世界で最も人口の多い街になった。■17世紀の平和と繁栄が日本にもたらした環境及び人口危機の主な要因は、木材消費の拡大による森林乱伐だった。日本の建築物のほとんどは、木で造られていた。人口が急成長し始めると、田舎でも都市でも数を増す住民の需要を満たすため、建材としての木材使用が盛んになった。1570年ごろから、秀吉、その後継者である将軍家康、そのほか大名の多くが先頭に立ち、壮大な城や寺を建造した。家康が築いた城のうち最大の3城だけで、約25平方キロの森林を伐採する必要がある。囲炉裏による冬の暖房のせいで火事が起こりやすく、1657年の明暦の大火で、首都江戸の半分が焼失した。■木は暖房や炊事の燃料として使われたほか、工業の分野でも塩や瓦や陶磁器などの製造に使用された。木を焼いて作った木炭で、鉄の精錬に必要な高温の火を維持した。国の人口が増加して、さらに食糧が必要となった結果、さらに森林地が農業用に切り開かれた。森林乱伐は木材・燃料・飼料用の木の不足という明白な事態や、巨大建造物構築のやむない終了のほかにも、さまざまな過程で江戸時代の日本を損なった。伐採された土地に出現した再生林は原生林より燃えやすいので、森林火災が増えた。急斜面を保護する森林被覆が取り払われてしまうと、日本特有の豪雨や雪解け水、頻繁な地震などの影響で土壤の浸食速度が増した。

徳川幕府の解決策 58

1657年の明暦の大火と、結果として首都再建のために生まれた木材の需要は、国の人口、特に市街地の人口が急増していた当時刻々と進む木材その他の資源の欠乏に警鐘を鳴らす機会となった。しかし、日本は、次の2世紀のあいだに少しずつ、安定した人口と、これまでよりずっと持続性のある資源消費率を達成してみせた。この方針転換は、代々の将軍による上からの主導で行われた。■トップダウン方式の政策の多くは、樹木の伐採と生産のあいだに生じた不均衡の是正をめざしており、当初は消極策（伐採を減らす）を中心としていたが、しだいに積極策（生産を増

やす)も採られるようになった。1666 年将軍が、森林乱伐による浸食、河川の沈泥、洪水の危険を警告し、人々に苗木の植え付けを促す発布を行った。1600 年代に、日本は、社会のあらゆる階層において森林の利用を規制する全国的な取り組みに着手し、1700 年には森林管理の緻密なシステムを整えた。「誰が、何を、どこで、いつ、どのように、どの程度、どの価格で行うことができるのかを明確にする」ことを目的としていた。

なぜ日本社会は崩壊しなかったのか？ 66

日本では、降雨量の多さ、降灰量の多さ、黄砂による地力の回復、土壌の若さなどのおかげで、樹木の再生が早い。草や若芽を食べてしまうヤギやヒツジがいなかったこと、戦国時代が終わって騎兵が必要なくなり、江戸時代の初期に馬の数が減ったこと、魚介類が豊富にあったので、蛋白質や肥料の供給源としての森林への圧力が緩和された。■ 支配層である徳川幕府の将軍たちは、国内を平定し、敵対勢力を排除することで、内憂外患のない未来を予測できた。平和、政治的安定、自分たちの将来への根拠ある自信を後ろ盾に、徳川家の将軍たちは、領土の長期的な将来に対して投資を行ない、計画を立てる意欲を持った。将軍が強いた鎖国という平和によって、外国の思想が入り込まない安定した社会に暮らしていた日本の権力者と農民たちはどちらも将来が現在と変わらないこと、現在の資源で将来の問題が解決されることを期待した。日本の森林管理はしだいに森林の長期的な既得権を持つ国民の手に委ねられるようになった。人々が自分の子どもに森林の利用権を継がせることを期待するからだ。

第 15 章 大企業と環境—異なる条件、異なる結果

林業がかかえる問題 360

東南アジアの熱帯地方では、大規模な伐採事業が進行中で、主導しているのは、マレーシア、台湾、韓国に本社を置く国際的な木材業者だ。地元住民の所有する土地の賃借伐採権を得て操業し、未加工の原木を輸出するが、新しい苗を植えることはしない。木材の値段のかなりの部分は、切り倒したあとの加工作業の代価だ。加工済みの木材は切り倒したままの木よりはるかに高く売れる。未加工の原木を輸出するということは、地元住民及び政府から資源の潜在的価値の大部分を奪い取っていることになる。熱帯産の硬材はとても貴重で、需要も高いので、熱帯雨林を賃借し、伐採し、その害を顧みないという操業法は、とてつもない利益を生む。地元住民の黙認を得ることが比較的容易なのは、地元住民が現金収入を切望していて、無節操な伐採がもたらす惨害を今まで目にしたことがないという理由による。政府の高官たちが買収されやすいのは、国際的な視点や業者の利益構造を見抜く目を欠いているからであり、加工済みの木材の値段も知らない高官もいる。■ 西ヨーロッパやアメリカの原生林はすでにほとんど伐採され、急速に面積を減らしてきた。大手の木材業者は、短期の賃借ではなく、森林を所有しているか、長期の賃借契約を交わしているの、持続可能な伐採のほうが自社の利益にかなう。一般市民の環境意識は高く、木製品を買うときに、その材料が持続不能な破壊的方法で伐採されたものかどうか、気にする消費者も多い。政府の規制はときに窮屈なほど厳重であり、高官は買収されにくい。西ヨーロッパやアメリカで操業する木材業者の中には、第三世界の低コストの生産者との競争力ばかりでなく、自社の生き残り、“社会からの操業許可”を気にするようになった。

森林管理協議会の成果 367

1993 年、複数の企業、政府、基金、環境団体からの資金援助で、ドイツに本部を置く森林管理協議会(FSC)という国際的な非営利組織が設立された。FSC の設立趣旨は、健全な森林管理の基準となる細目を明文化し、個々の森林がその基準を満たしているかを認証する機構をこしらえ、認証された森林から消費者に至るまでの複雑な供給チェーンを追跡する別の機構をこしらえて、消費者が FSC のロゴの付いた商品を選べば、健全に管理された森林の材料で作られた紙や椅子や板を入手できるようにすること。森林の所有者もしくは管理者はわざわざお金を払って監査を受ける。それが自分たちの利益につながると判断する所有者もしくは管理者が増えてきたからだ。独立した第三者の認定を得ることで、イメージがよくなり、信用がついて、より多くの市場と消費者に認められれば、監査料は取り戻せる。■ 各社さまさまの“押し”と“引き”の組み合わせを経てきている。“押し”というのは、例えば在来種の生活林で操業するなど悪慣行に対する環境団体の突き上げだ。世界最大の木材小売業者であるホーム・デポが熱帯雨林行動ネットワークにそういう圧力をかけられた。“引き”というのは、目の肥えてきた一般市民に対して、企業が売り上げを維持する、もしくは伸ばすための好機だというとらえかただ。動機に“押し”の要素が強いホーム・デポなどの企業の立場に立ってみると、長年かけて築いてきた供給業者との取引関係に変化をもたらしながら、慎重に動かざるを得ないという側面もあった。動いているうちに急速に知識を身につけて、ホーム・デポみずからがチリや南アフリカの供給業者に対し、FSC の基準を採用するよう圧力をかけるまでになった。消費者の目が届きにくかった建設業者、総合請負業者、設計事務所が、税制優遇措置や公的事業への入札のために FSC ラベル付きの製品を選ぶなど、環境に配慮する姿勢をはっきりと示し始めた。

企業と公共性——一般市民はどう関わるか？ 384

一般市民が企業に違う行動を期待し、要求したとき、自分たちの望む行動を採った企業に報奨を与え、望まない行動を採る企業に苦汁を飲ませたとき、企業は変わった。過去にそうだったのと同じように、未来においても、一般市民の姿勢の変化こそが、企業の環境に対する振る舞いの変化に必須の要素となる。

『世界のともだち オーストラリア』 29

“毎日わくわく！ビリーの海ぐらし”

文・中山茂大/写真・坂口克/偕成社



オーストラリアの東海岸、サーフィンで有名な町、バイロンベイにビリーは住んでいます。オーストラリアはヨーロッパの移民が作った国で、お父さんはドイツの古い家柄。お母さんの祖先はイギリスからきました。ビリーは5人兄弟で、お父さんはプロのミュージシャンです。ビリーのお家は、気持ちのいいウッドデッキのついた5LDKの大きな平屋。天気の良い日にウッドデッキでごはんを食べるのが家族のお気に入り。家の前にはサッカーができるくらいの広い芝生の庭。そこには、アメリカ先住民のテント「ティピ」がふたつならび、そのひとつにはホームステイ中の子が住んでいます。庭の中央の大きな木の上にはツリーハウスもあります。ビリーは小学5年生。毎朝7時に起き、8時50分に登校します。好きな科目は国語、美術、体育。音楽もお父さんに教えてもらって、ギターを弾くのが得意。苦手な科目は算数です。ビリーの学校では「兄弟学級」という制度があり、ふたつの学年が一緒に授業をうけます。先生はふたりで、ひとりの先生が授業をすすめて、もうひとりの先生は、わからない子のそばについて教えます。先生はいくつかの課題をあたえ、それ

れぞれが、その中から好きな課題をえらんで取り組みます。自分の席もきまっていなくて、毎日好きな席に座ってもかまいません。とても自由な雰囲気です。ビリーの家からメインビーチまでは歩いて10分もかかりません。きめこまやかな砂浜、その先にはエメラルドグリーンにかがやく太平洋。クジラやイルカのむれが見えることもあります。ビリーは週に3、4回は海に行きます。夕方、ご飯までの1時間ほどを、友だち達と海で過ごすのです。家で水着に着がえて、スケボーにとびのると、海へまっしぐら。たっぷり遊んだら、そのまま帰って家のシャワーに直行です。バイロンベイでは、はだして町なかを歩いている人をたくさん見かけます。お母さんに聞いてみると、「ビーチではみんなはだしでしょ？だから、町でもはだしなの」と。だけど、はだしではガラスの破片などあぶないので、定期的にみんなで町中をいっせいにそうじするそうです。コミュニティを大切にするオーストラリアならではの地域活動です。キリスト教を信仰する人が多いオーストラリアでは、クリスマスは1年で1番大切なイベントです。オーストラリアは南半球に位置するので、日本とは夏と冬が逆転しています。ビリーたちは毎年、家族みなでお祝いする「サマークリスマス」を心待ちにしています。1年中あたたかいバイロンベイで、のびのびと暮らす世界のお友達の日常を、是非のぞいてみてください。（要約：K.M.）

『世界のともだち セネガル』 30

“貝がらの島のマドレーヌ”

写真・文 小松義夫/偕成社



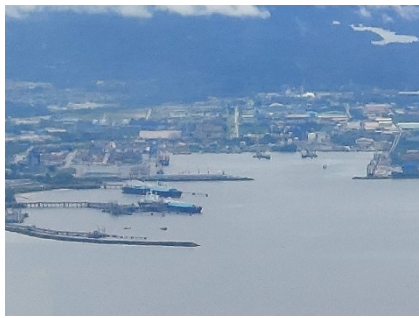
大西洋に面した海岸線を首都ガタールから約110キロ下ったところに、貝がらでできた島があります。マドレーヌはその島に住む、11才の女の子です。セネガルには色々な民族の人がいて、それぞれ、自分の民族の文化や言葉を大切にしています。島にはセレール族が多く、マドレーヌの家族もセレーヌ族。家では、フランス語とセレーヌ語を話します。マドレーヌは弟2人がいる、5人家族。お父さんの両親も一緒に住んでいます。マドレーヌは家の手伝いをよくします。そうじやお使いなどをすすんで引き受けます。2人のおさない弟たちの面倒をあれこれ見るようすはまるで小さなお母さんです。勉強もきちんとこなし、お父さんは「この間の英語のテストはクラスで1番だったんだよ。この子は放っておいても心配ないんだ」と自慢げでした。そして、学校の成績がいいだけではなく、とてもおしゃれです。セネガルの女性は、黒い肌にあうように、原色の服を上手に着こなします。きっと、マドレーヌもセンスのいい、すてきな女性になるでしょう。セネガルの学校教育は6才から始まり、小学校6年間と中学校4年間は義務教育です。授業はフランス語で

行われます。学年末の9月には試験があり、成績が悪いと落第することもあるそうです。5年生のマドレーヌのクラスは52人で、キリスト教徒39人とイスラム教徒13人の生徒が仲よく席を並べて勉強しています。10月の新学期にふたたび島を訪れると、学年末の試験でいい成績をとったマドレーヌは6年生を飛ばして進級し、中学生になっていました。学校が終わると、橋を渡って島に帰ります。ゲームやゴム段をしていると、まわりの子どもたちが加わってきて、年上の子も下の子もいっしょにわいわいがやがや。コンピューターゲームなどはないので、身近にあるものを工夫しながら遊ぶ光景をよく見かけます。夕方、1日が終わり、中庭に座って今日あったことを家族と語り合ってくつろぐのも、マドレーヌの大好きな時間です。早朝、お父さんは馬車で30分ほどかけて畑に行きます。お父さんが畑へ、子どもたちは学校へと出かけたあと、お母さんは山のような量の洗たくをします。洗たく機はなく、手で洗うので大変です。それから食事の下ごしらえをして、末っ子にはつきっきりで世話をし、手の休まる時がありません。マドレーヌがよく手伝ってくれるので、お母さんは大助かりです。キリスト教徒とイスラム教徒が仲よくくらしているこの島には、教会もモスクもあります。イスラム教徒のタバスキの日。夕方になると、広場に着飾った人々が集まってきて、セネガルの太鼓タムタムのリズムに合わせて踊ります。キリスト教徒のマドレーヌも、イスラム教徒のお友だちといっしょにこの日を祝います。キリスト教徒のお墓もイスラム教徒のお墓も、同じ場所にあります。村人は貝がらの上で一生をすごし、亡くなると貝がらにつつまれて永遠の眠りにつくのです。2つの宗教が共存する小さな島でくらす、がんばり屋なお友だちの日常が描かれています。（要約：K.M.）

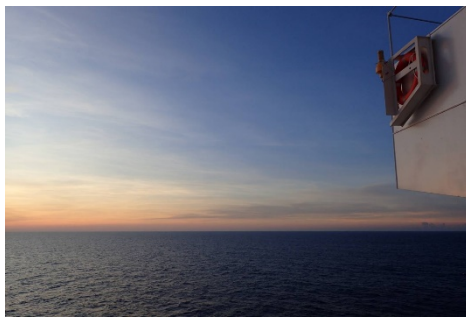
□世界を通過中③ ～ブルーオーシャン～

石川先生から船の位置がわかる話を！と言われましたが、そこは太平洋のど真ん中ブルーオーシャン、海と空と雲しかありません。砂漠と聞くと、砂と太陽しかないイメージですが、太平洋のど真ん中も海と空と太陽しかないです。水蒸気が沢山蒸発するから雲があるのが砂漠との違いでしょうか。日本から20日ほどかけて再びパナマ運河目指して航行中です！■ブルーオーシャンと聞くと、未開の青い楽園のように聞こえるかもしれませんが、陸から遠く離れた何もない海。今でこそ、衛星通信でメールも出来るようになってきましたが、通信環境は陸とは比べ物にならないほどまだまだ貧弱。まして船があるから良いものの、船から一歩外へ出たなら、誰が居るわけでもなく、草木が生えて実がなっている訳でもなく、この広い海で魚1匹見つけるだけでも大変そうです。航海中に時々トビウオの群れやイルカたちに出会うこともありますが、彼らとて、広い海で食料/餌を探して泳ぎ回っている訳で、人間が大海原で生きていくには、やはり船が不可欠ですね。海に限らず宇宙に浮かぶ青い船、地球もおんなじ筈です。何もない宇宙空間で太陽軌道を回る宇宙船、船内でイガみあって喧嘩すると、他の同乗者にも迷惑がかかるし、まして火器など使ったら船が傷だらけになってしまい、乗船者全員を危険にさらすことになるのです。■モノや情報が溢れた現代社会から考えると、何もないことはある意味贅沢なようでもあります。船の上で沢山仕事はありますが、業務時間外は基本的に自由。かと言ってどこかへ出かけられる訳でもないし、TVやラジオの電波すら届かない。したがって本を読むとか、映画(DVD)を見るとか、勉強(仕事)するとか、くらいしかやる事がない。当然、入港中以外には乗組員以外の誰かと会うこともないし、やる事さえやってしまえば誰からも干渉されない時間が沢山あります。(とは言え、インターネットの普及も含めて情報量が増えるためか、業務に追われる日々です。下手にITが進歩して陸上とつながらない方が良い面もあるような気がします。)最近ではインターネットが多少繋がる様になったので、携帯電話を手放さない乗組員が増えた気がします。■オーシャンビューといえば聞こえはいいですが、寝ても覚めても海ばかり。むしろ陸が見たくても見えない日々が続きます。入港が近くなって、遠くに街の明かりが見えてくるとちょっと嬉しくなったりもします。人間とは常にあるものには慣れて興味を失ってしまい、目新しい非日常に憧れる生き物なのだと改めて感じます。■海の上ではやっぱり船の位置を知ることが大切です。360°海と空、目標になるものは天体くらいしかない大洋では、今でこそGPSの電波で緯度経度がわかりますが、現在の位置が分からないとどっちに向かって走って良いかも分からなくなります。昔から船はコンパスの指す方位と速度と時間で船の位置を算出していました。現在地と過去の航跡がわかれば、目的地に向かってどっちにどのくらい走れば良いかが分かるのです。人間だって今自分の置かれた位置をしっかり確認して、目的地に向かって走ることが出来れば、どんな大海原だって渡ることが出来ます。ブルーオーシャンは目的地ではなく超えていくものであり、その先が目指すべきところなのだと思います。

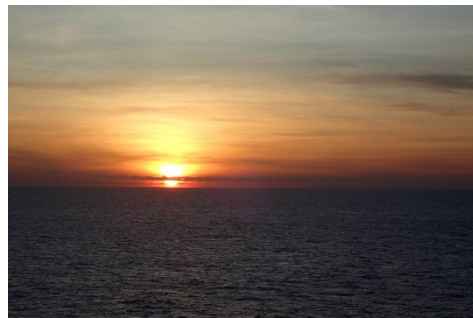
(2022年2月某日) ●博信さんからのVOICE■



【マレーシア・ピンツルの港(航空写真)】



【海上の朝】



【海上の夕日】

□夫婦で行く「日本百名山」完登を目指して② ～99座目「穂高岳(3190m)」～

穂高岳という山名の山は無い。深田久弥の日本百名山には「穂高に登った最初の人」は明治26年(1893年)夏、嘉門次を連れたウェストンであった。もっともそれより2週間前、陸軍省の視察隊がやはり嘉門次を連れて登っている。しかしこれらのパイオニアの登頂したのは、今の前穂高であって、当時これが最高点とされていた。明治の末年頃から、日本山岳会の先輩達が相ついでに登り、それまで一括して穂高と呼ばれた岩峰群に北穂高、奥穂高、涸沢岳、前穂高、西穂高、明神岳という風にそれぞれの名称が与えられるようになった。その最高は奥穂高であってわが国第3位である。初登頂は明治39年(1906年)陸地測量の時で、それから3年おくらせて登山家として鶴殿正雄が最初であった。」と記されている。又、穂高の荒々しくも神々しい景観を「峠に立った時、不意にまなかいに現れる穂高の気高い岩峰群は、日本の山岳景観の最高のも」とされていた。その不意打ちにおどろかない人はいなかった」とも書いている、「峠」とは徳本(とくごう)峠のことである。

【穂高岳登山計画】

今夏、コロナ禍で自粛していた山登り(小屋泊)を3年振りに断行した。残る百名山は北アルプス穂高岳、中央アルプス空木岳の2座であるが、何とか今夏には登りたいと考えた。しかしこの3年間で登った山は日帰り標高1500m以下

<<千の声 VOICE>>

を僅か2座、日々歩くことを心掛けてはいるものの二人共後期高齢者になり体力的な不安が頭をよぎる。空木岳(2864m)は空木避難小屋(頂上まで往復1時間)と地元山岳会が夏季シーズン中にだけ開放する予約制の頂上直下にある駒峰ヒュッテ(自炊)のみで食事を提供する小屋は無い。又コロナ前は寝具を貸出してくれていたが感染防止の為現在はやっていない。登り8時間下り5時間、計13時間の空木岳は3年前であれば日帰りも考えられたが、今の我々には少々難しい。記念すべき100座登頂を穂高岳で祝いたいという願望もあって、駒峰ヒュッテに週末を避けて予約を入れたが満室で断られてしまった。テン泊装備を担いで登る自信もないので空木岳へのトレーニングも兼ねて山小屋施設が充実している穂高岳に行くこととし、早朝自宅を出て新宿発のあずさ号で行く計画を立てる。その日1泊目を上高地(標高1500m)から3時間の横尾山荘(標高1620m)と2泊目を横尾山荘から登り6時間の穂高岳山荘(標高2996m)に改めて予約を取った。

【8月21日(日)晴れ】

自宅最寄り駅発 5:50→新宿発 7:00 あずさ1号→松本 9:38~10:10→新島々10:40~10:50(バス)→上高地 11:55~12:30→徳沢園 14:30~15:00→横尾山荘着 16:00(泊)。特急あずさに乗ったのはいつだったか、はるか遠い昔で思い出せない。汽車の旅はいくつになっても遠足気分だ。百名山は夏と春秋の休暇祝日が絡む連休に目的の山を巡る為、車利用となる。甲府あたりでは右に奥秩父、左に南アルプス、小淵沢では甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳と久々の車窓に流れる景色を堪能する。塩尻を過ぎたところ突然電話が入る。明日宿泊予定の穂高岳山荘から「従業員のコロナ感染が発生し急遽営業停止しなくてはならない、予約取消しをお願いしたい」との連絡であった。本来山小屋は避難小屋としての責務もあり登山客を断る事はしないのが原則である。しかしコロナでは致し方無い、現在のコロナ禍では予約制で収



【2010/10/12 正面北穂高岳、左淵沢岳、

左下赤い屋根淵沢ヒュッテ、向い中央 淵沢小屋】

容人数も制限しているのは受忍せざるを得ない。横尾山荘から3時間、穂高岳のベースキャンプ地であり日本屈指の山岳景勝地でもある淵沢には淵沢ヒュッテと淵沢小屋の2件の山小屋がある。淵沢ヒュッテには2010年10月燕岳~西岳と表銀座縦走路~喜作新道を歩いた時紅葉真っ只中の淵沢に寄り素泊りで一泊している。今回はそれより多少上部にある淵沢小屋にと予約を入れ平日でもありすんなり取る事が出来た。松本電鉄乗換え待ち時間で何とか山小屋の目途がついたので一安心。松本から松本電鉄で30分、新島々でバスに乗換え1時間上高地バスターミナルに着く。日曜、好天で観光客、登山客でかなり混雑している。軽い昼食をとり午後1時出発、天気も上々、河童橋では梓川、穂高吊り尾根をバックにパチリ、小梨平キャンプ場を抜け梓川沿いの林道を心地よい風を感じながら1時間ほどで明神館前を通過、さらに1時間ザックが肩に重く感じ始めたころ徳沢園に着く。ここは標高1562m、上高地バスターミナル標高1500mから往復4時間、一般観光客もスニーカーで来れる所で、井上靖の水壁では「徳沢小屋」であったが多分映画化で有名となり今では「水壁の宿・徳沢園」となっている。デッキテラスのある洒落た喫茶レストランは家族連れ、ハイカー、登山客で賑わっていた。ここ徳沢からの道は明るい樹林帯の中を辿り人も少ない静かな林道歩きとなり、さらに1時間標高1620m横尾山荘に着く。収容人員250名、風呂もある立派な山小屋である。せっかくなので就寝前に入浴し早朝からの長い一日の汗を流した。

【8月22日(月)晴れ】

横尾山荘 6:40→本谷橋 7:50~8:00→淵沢ヒュッテ分岐 10:10→淵沢小屋着 10:30 天候悪化の為、停滞。出発時の天気は上々であった。山荘前の吊り橋を渡り横尾谷の広い河原に行く、右の樹林帯に入り緩やかな道をししばらく行くと視界が開け左に日本を代表するクライマー憧れの屏風岩大岩壁が望まれる。1時間ほどで本谷橋に着く、上部の横尾右股沢と淵沢の合流する本谷出会いより少し下流に架けられた橋でそう呼ばれている。小休止をとり淵沢小屋へと向かう。平日ではあるが月曜日だからであろうか下山する人達と度々すれ違ふ。落石注意の看板があるSガレを抜け淵沢ヒュッテ分岐を右の樹林帯に入り20分ほどで淵沢小屋に到着した。標高2350m、デッキから



【屏風岩大岩壁】

は正面に前穂高岳北尾根岩峰の連なりと淵沢カールが広がり、その基部には淵沢ヒュッテ(標高2309m)とテン場に点在するカラフルなテントが見える。そしてその左上方、北東の方角に常念岳の雄大な姿が雲の切れ目に望むことができる、これぞ淵沢という絶景を楽しむことができた。時々陽は射すものの上方には厚い雲がかかり、これから登る奥穂高岳~淵沢岳の稜線は雲が垂れ込めていて見えない。もう再び登ることはないであろう奥穂高山頂は晴れていてくれなければ困る、どうしても頂上からの絶景を見せたい。少し様子を見るが一向に良くなり暗雲と変わっていく。小屋泊りとはいえそれなりの装備(約10kg)を背負ったこと、久々の本格的登山で少々気負ったのか軽い疲労感も影響した。なんとなくその気にならない、ぐずぐずしているうちに雨模様となり、まだ昼前ではあるが明日の好天を期待して早々と停滞を決める。小雨がパラついたり止んだりしてはいたが午

後には時々晴れ間も覗き、雨でしっとりとしたこの山の空気を存分に味合った。我々と同様に穂高岳山荘の急遽営業停止で余儀なく泊まっている登山客も相当数いると思うが比較的空いていて寝るスペースも十分であった。前述した紅葉シーズンの涸沢ヒュッテは大混雑で、普通に枕を並べて同じ方向に寝るのではなく頭の左右に両隣りの人の足があるという頭と足が交互に並ぶ通称トンボ返りという寝かされ方で詰込まれ、外は0℃に近い気温なのに暖房と人の熱気で汗をかきよく眠れず、二度と来るかと思った記憶がある。小屋からの景色においても規模が小さいのも涸沢小屋で正解であった。

●哲彦さんからの VOICE■

□覚悟を決めたからこそ断酒ができました ～仲間たちと共に～

主人が断酒してから 25 年の月日が経ちました。主人が 40 歳のときに、はじめて駒木野病院に来た時にソーシャルワーカーの方から「奥様や家族がまずアルコール依存症についての本を読んだり、院内の家族の会に出席して勉強して、病気を理解して下さい。地域の断酒会に参加して皆さんの話を聞くことが大事です」と言われました。最初の頃は主人が一人で院内例会や断酒会に参加していましたが、50 歳までの 10 年間、再飲酒のために駒木野病院に 4 回入院しました。何回もの裏切りに私たち家族は途方に暮れました。主人の両親を見送り、味方を失った私は、暴れる主人と二人の子どもを抱えて「なんとしても主人に断酒を続けてもらわなければ」と覚悟を決めました。主人と一緒に断酒会に通った時に、酒をとったら何も残らないと思った主人のような酒豪たちがそこにはたくさんいました。飲んでいた頃を想像するだけで恐ろしいような人たちが今、断酒して、10 年、20 年と継続を可能にしてきた仲間たちが目の前にいました。きっかけは人と人とのつながりでした。信用をすべて失ってしまった主人に「頑張れよ」と励ましてくれる仲間たちの言葉が主人や私たち家族を救ってくれました。■長年断酒している方から「毎週夫婦で通い続ければ必ず断酒できますよ」その言葉を信じて通う決心をしました。「もう行かねえよ」「もう飲んでやる」と怒鳴る主人をなんとかだめて、喧嘩をしないように通い続けました。台所の包丁を持ち出して壁にブスブスと突き刺したりしてみました。が怯んでいる場合ではありません。仲間の方々から毎週お電話をいただいて、イライラしている主人の気持ちをおさまらせてくれたことも度々でした。断酒会のブロック大会、全国大会などに参加してアルコール依存症本人の壮絶な体験談を聞いて、それでも断酒している仲間たちがたくさんいることを知りました。気の合う仲間たちと全国それぞれの場に声をかけてくれる方たちとつながることができました。長年断酒をしていても、再飲酒してしまったら元の状態よりもっとひどいことになってしまう恐ろしさも知りました。「相手を変えようと思ったらまず自分が変わらなければいけない」と気づかされました。アルコール依存症は心身共にこわい病気です。でも、断酒継続すれば回復することができます。■「一日断酒」を続けて仲間たちと笑い合ったり、仲間たちと旅行を楽しむこともできるとわかり、私たち家族も同じ苦しみを分かち合い支え合って新しい人生をみつけることもできました。「うるせえ」と言っていた主人が「ありがとう」と言ってくれるようになりました。10 年、20 年と断酒してくれたからこそ、「お父さんなんて大嫌いだ」と言っていた娘が病院への送り迎えをしてくれるようになりました。主人にも感謝、娘にも感謝です。これから断酒しようとする新しい仲間達のために、自分の体験談を語るために全国に足を運んできました。■駒木野病院の院内例会、記録大会などに一生懸命参加を重ねました。たくさんの先生方やスタッフの方々からのあたたかいアドバイスや励ましに心から感謝しています。今までに出逢った断酒会の仲間たち、病院で出会った多くの仲間たち、そして家族の皆さんにも本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも悔いのないように主人と二人で「ラストスパート」です。

●愛子さんからの VOICE■

□石川塾に魅せられて ～学ぶ楽しみを引き出す授業～

【石川塾との出会い】

ある週末に「メキシコのピニャータを作るワークショップに参加してみない？」と子供のお友達の親御さんからワークショップのお誘いを受け、面白そうなので参加させてもらった。これが石川塾との有難いご縁の始まりだった。早速、週末に子供3人を連れてご案内いただいた教室に着くと、扉の奥は壁一面に書籍が並べられ、そこは私が知っている塾のイメージとは違う雰囲気、どこか懐かしく、ほっと安心できる空間だった。そこに何組かの親子が集まり、メキシコ出身の親を持つ通塾生がパワーポイントを駆使しながらメキシコの地理や食文化を丁寧に紹介していた。あまり馴染みの無いメキシコとあり、子供達も食い入るように観ていた。塾生による親御さんや先生に頼らない、堂々としたプレゼンテーションに感心した。その後は参加者全員で新聞紙を固めてピニャータ作りに挑戦、中にいっぱいのお菓子を詰め、順番でピニャータが割れるまで棒で叩いた。騒ぐ子供達の中で、穏やかにワークショップの様子を見守る男性の姿が目に入ってきた。軽く会釈をすると気さくに話しかけてきて下さったのが石川先生だった。イベント中も、物静かに進行を見守っておられる石川先生は、まるで後光が差した菩薩のような雰囲気を醸し出しておられた。その

<<千の声 VOICE>>



後、先生から石川塾の方針を伺い、私が娘の学習面の課題を相談しようすると、「説明不要」とは言わないまでも、全てを見抜いておられるような笑みで、私達親子に「まずは通ってみませんか。」と言って下さった。私は、型にはまらず子供それぞれの課題と個性に沿った指導方法で、子供の可能性を引き出そうとする石川メソッドに深い感銘を受け、お世話になりたいと思い体験授業を申し込んだ。「石川塾は何か手を差し伸べてくださるかも。」そう感じずにはいられなかった。

【これまでの学習塾とは違ったアプローチ】

我が家は共働きで娘3人娘の5人家族、毎日が騒がしく落ち着かない。昭和生まれの私からすると、学校での学習は授業に集中し、予習と復習の自助努力さえしていれば十分についていけると考えている、子供達の勉強に関しては、基本的に干渉せず「自分でやる」、「分からないことは学校の先生に聞いてくる。」と伝えてきた。しかし、昨今では受験を目指していなくても学校の半数以上の子供が何かしらの学習塾に通う時代になり、その流れに乗るべきか悩ましくも、長女を含め幾つかの塾の門を叩いた経験はある。

まず、最初に訪れた公文では、親の私が苦戦を強いられた。毎日家庭で取組む課題の進みが悪く、「宿題をやりなさい。」と、四六時中子供を追っかけて催促をするも、やらされ勉強で学習が身に入らず、親子双方にストレスが溜り、結果的に断念するかたちになった。本人のやる気が大事だ。三女に関しては、好奇心旺盛はいいが、自分の興味のある事以外の取り組みにおいて、集中力が持続しないことが課題で、家庭で宿題に取り組ませるも、私が目を離した隙に何かと理由をつけては席を離れてしまう。こうした経験から、子供達への学習習慣の定着の大切さを身に染みて感じていた。

【子供の特性に沿った指導とやる気スイッチ】

体験授業の初日、娘は「どこにいくの?」といつになく緊張した様子で聞いてきた。私は「楽しく勉強をするところだから、行ってみようよ。」と言いながら、下校した娘を連れてそのまま石川塾に向かった。すると、教室では小学生から高校生までの塾生が、黙々と課題に取り組んでいた。教室にはゆったりとした学習時間が流れ、塾生の心と課題を掌握した講師陣が、的確な学習指導を行っている。その塾生の姿勢は、やらされ勉強ではなく、自分の課題に自主的に取り組む、私が思い描いていた“自学自習”そのものだった。

石川先生は、教室の入口に立ちすくむ娘に「勉強は好き?」と優しく話しかけて下さった。すると、娘は少し困った顔をしながら「わかんない。」と消え入りそうな声で答えた。それもそのはず、娘は勉強を嫌になりかけていたからだ。小2に入り、毎日のように私に「何の為に勉強するの?」と聞いてきては、嫌々取り組む学習が続き、どうしたら娘の勉強への興味を引き出せるのかを考えていた。状況を察した石川先生が娘に「先生のところでお勉強をして、言葉のシャワーをいっぱい浴びようね。」とおっしゃった。「シャワー?」と不思議そうな顔をして聞き返す娘に、石川先生は「そうだよ。いっぱい本を読むと沢山の言葉を覚えることができる。沢山の言葉を知っていると、人の気持ちを理解できるし、自分が伝えたいこともきちんと伝えられるようになり、人と上手にコミュニケーションをとれるようになって世界が広がるよ。」とお話された。娘は「言葉のシャワーってすごだね。」と特別な事を自分だけが知り得た感覚だったのか、にんまりした顔で答えた。すると先生は、机上一冊の本を出して、「この本面白いよ。先生と一緒に読んでみようか。」と、ページをめくり一行ずつ交代で娘と音読を始められた。「次ははるかちゃん。」「次は先生だね。」と、キャッチボールのようにテンポよく楽しい音読が続いた。そこには水を得た魚のように生き活きと学びを楽しむ娘がいた。

音読の後には、「計算は楽しいよ。試しに100マス計算をやってみよう。」と計算問題のプリントを出す石川先生と、まるで石川先生の特別なマジックにかかったかのように意欲的に取り組み、初日の1時間半はあっという間に過ぎた。そして「もう終わりなの。」と残念そうな様子で教室を後にした。娘は「勉強はもしかしたら楽しいものなのかも。」と思えたのかもしれない。その後、娘が通塾の意向を固め、家族で相談した上で石川塾への入塾を決めた。

【自立の促しと模索する子育て】



私の3人の娘は三者三様で個性もまるで違う。家庭教育においても、長女に通用した言葉が下の娘には響かない、またその逆も多々ある。子育てに絶対正解は無いことは理いても、子育て13年目に入ってもまだなお模索状態は続き、一度たりとも自分の教育に自信を持てたことはない。常に「あれでよかったのか。」「こうしとけばよかったのではないかな。」と反芻ばかりしている。

仕事を持つ私にとって、子供達に自立を促すことは家庭を円滑に回す上で必須だと考えている。だから、何事も娘たちには「自分たちでやる!」をモットーに掲げ、片付け、学校準備、宿題、料理も極力自分たちでするように促してきた。失敗してもよいし、もし失敗しても、そこから学べばよい。時間をみつければお料理を教え、家族5人当番制で協力と分担を促進してきた。傍から見たら、「あのお母さん家事をさぼって、子供に押し付けている。」と思うかもしれないが、私自身も多忙な共働きの両親を助ける為に姉妹4人で、家のお手伝いをしてきた経験値から、娘たちにも出来るはずだと思っている。いずれ独立し

ていく身であれば、学習のみならず、なるべく自分でできることを増やしておく、後々自身を助けていってくれる。これに関しても勉強同様にやらされてではなく、自発的に取り組めるまでになってくれたらと願っている。

【コロナ禍での教育環境の変化への戸惑い】

小学校に進学早々、またもやコロナが学習環境にも大きな影響を与えた。iPadを使ったオンライン授業に始まり、休校、そして学校行事の見送りも余儀なくされ、友達に会えないことも徐々にストレスになり始めていた。一日に4限目ほどの授業は先生主導で進めど、子供達は分からない事を質問する機会も持てないまま淡々と単元は進んでいった。感染者数の減少に伴い、授業が再開するや否や次々と確認テストが行われていく中で、娘が「引き算が分からない」と言い出した。「あれ？どこがどう分からない？」とたずねるも「わからない。」の一点張り。今思うと、娘はどこが分からなくなっているのかも、自分でもわからなくなっていたのではないだろうか。でも。その時の私には分からなかったが、後にその根本的な問題を石川先生が解決して下さることになった。

【成果発表による自己肯定力向上】

石川塾に通い始めて2か月、勉強に対して自信を持てず「わからない。」と逃げていた娘に変化が見え始めた。娘は、「聞いて。これを習ったよ。」と石川塾で習得してきた読み書きや、俳句やことわざ等を家庭内で発表するようになった。姉達もまだ習っていない事を自分が知っている優越感から、自慢げに発表し、家族の皆から褒められる機会が増え「私はできる。」と徐々に自信を持ち始めた。石川塾では小学校の補修や学年配当内容だけに留まらず、子供達の好奇心を存分に引出して一歩先の内容を学ぶことができる。「なぜ？」や「へえ～そうなんだ。」と、子供達を刺激し、知ること、考えること、学ぶこと、の本質的な面白さを教えて下さる石川塾は、親の私にとっても刺激と驚きの発見の連続だった。毎回、石川先生は娘に「やったらできる。よくがんばったね。」と褒めて下さる。石川塾での学習を通じ、娘が自己肯定感を高めていると実感できていることが何よりも有難い。

ある日、娘が家族に孔子の「論語」の朗読暗唱の発表したときのこと、読書が好きで70歳過ぎた今も積極的に俳句活動している母が絶賛し、「一緒に俳句を作ろうよ。」と娘を誘った。褒められ世代の違う祖母と共通の話題と趣味を持てることが嬉しかったようで、その日から活字を追うことに興味を持ち、自主的に読書をするようになった。

【通塾してからの親子の発見】

通塾して少し経った頃、石川先生は私に「彼女は頭がいいです。彼女は勉強できないのではなく、肯定も否定も含め、彼女の勉強に寄り添ってもらう機会がなかったのかもしれない。」とおっしゃった。どうしても勉強の評価は学校でのテストや成績で計られがちだが、石川塾に通い始めてから私のその考えは変わった。やらされ勉強は、その時は良い点数を取れるかもしれないけれど、そこには自発的な取り組みではないので、幸福感や次への探求心に繋がっていくものではないのかもしれない、と。自分で学びたいと思って知り得る知識は、次の興味へと繋がり、「もっと知りたい」と学習の幅も広がり増し、最後は喜びへと変わっていく。娘の表情が見違える程明るくなったのも、そのことに気づき始めたからなのかもしれない。この著しい変化を観て、石川先生が仰っていたことが私の中でストンと落ちた気がした。これまでの私は、彼女に寄り添い、やる気スイッチを探すのではなく、「やりなさい。」と勉強を押し付けてきてしまっていたのかもしれないと自省した。

【今後の目標と将来の夢】

娘には将来獣医さんになりたいという夢がある。動物が大好きで、動物のことにすると優しい顔をのぞかせて、一生懸命にペットのウサギの世話をする。

今、娘はその夢の実現に向けて、「勉強を頑張る！」と意気込んでいる。これから、勉強はどんどん難しくなっていくけれど、目標があれば多少の困難も乗り越えていけるだろう。これまでの私は子供達にハードルを設定し、クリアした時点で次のハードルを設定してしまっていたのかもしれない。でもこれからは、子供達がハードルを越えた時こそ思いっきりそこに至るまでの本人の頑張りを存分に褒めてあげたいと思う。些細なことでも、努力を認めてあげることで、子供達が自分で自分を好きになり自己肯定力を高めていってあげたい。そうした経験の積み重ねにより、自己決定力も培われ、自律からの自立に繋がり、それぞれの夢の実現への繋がるのではないかと、そう考えられるようになった。

私は娘たちには常々「ママを反面教師にしてね。」と言ってきた。親だから何でもできる訳でもないし、一人の人間に過ぎない。この世に親子の縁をいただいたことは何事にも代えがたい幸せだと感じている。だから、これからは背伸びをせず、包み隠さず等身大の自分を見せながら子供達と向き合い、共に学び成長していきたいと思う。このように考えるきっかけを下さった石川先生、そして石川塾を紹介して下さったミツキ先生に心から感謝いたします。ありがとうございます。そして、引き続きご指導の程よろしく願いいたします。

●ハルカさん(小2)のお母さんからの VOICE ■



<<石川塾の遠足・ワークショップ>>

●6月12日(日曜)鎌倉あじさい寺(長谷寺・明月院)巡り♡

(※雨天のためコース変更)

■9:30 江ノ電長谷駅集合～長谷寺～高德院～江ノ電長谷駅～昼食“津久井”お好み焼き～鎌倉駅～JR北鎌倉駅～明月院～(※ここより雷雨にてコース変更)JR北鎌倉駅解散



【長谷寺紫陽花コース】



【紫陽花みつけ♡】



【お地藏様とハイポーズ♡】



【土砂降りで予定変更】

●12月11日(日曜)江の島洞窟探検と江の島水族館・イルカショー♡

■9:00 小田急片瀬江ノ島駅集合～江の島展望台休憩～江の島洞窟巡り(たこせん食す♡)～水族館(昼食)～イルカショー～水族館解散(自由見学)



【小田急片瀬江ノ島駅】



【岩屋に続く橋】



【イルカショー前にお昼ご飯】



【イルカのジャンプに興奮】

●ワークショップ 人体シリーズ♡開催しました♡

■6/26:人体の絵本(胸部) ■7/24:人体の絵本(腹部)

■8/7:臓器Tシャツ(うんち Ver) ■8/21:臓器Tシャツ(おしっこ Ver)



【胸部絵本】



【腹部絵本】



【うんちTシャツ】



【おしっこTシャツ】

◎石川塾のワークショップ♡2023年 春◎

小学生のほか♡看護医療系・保育教育系を志望する中学生と高校生にお勧めです♡
健康を気遣う大人の方も大歓迎♡解剖が分かったら自分の体のことが分かる♡楽しくなる♡

人体シリーズ第6弾●目の誕生/第7弾●耳よりな話

♡春休み(3/26・4/2)にワークショップを計画中です♡

□漫画『コウノドリ(12巻 35話)妊娠高血圧症』 鈴ノ木 ユウ/講談社

妊婦検診に来た妊婦が体重の増えすぎを注意されていた。体重が急激に増加すると胎児が大きくなりすぎたり、産道が狭くなることで難産になり帝王切開の確率が上がるのだ。母体の血圧が上がると、胎内での発育が遅れる妊娠高血圧症候群になる可能性も高まる。それに加え、早産や胎盤早期剥離や母体の意識が突然なくなる子癇発作、腎臓の機能低下など様々な合併症が起きやすくなってしまふ。■それから妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病にならないように食事に気を使ったり、ウォーキングを心がけるようにした。しかし次の妊婦検診でも体重の増加と血圧の高さを指摘された。彼女は食事の管理をしてくれている夫に隠れて、買い食いをしていたのだ。それにより妊娠高血圧症候群と診断され、緊急入院となった。このままでは、突然気を失う子癇発作や胎盤早期剥離などが起こる可能性があるのだ。妊娠三十四週での帝王切開が決まった。■妊娠高血圧症候群は必ずしも太り過ぎたからなるわけではない。三十キログラム以上太ってしまった妊婦が何事もなく出産することもあれば、しっかり体重管理をしていた妊婦になることもあるのだ。●カノンさん(高3)の要旨要約■

□漫画『コウノドリ(18巻 50話)不育症』 鈴ノ木 ユウ/講談社

妊娠検査薬で陽性反応が出た妊婦が産婦人科を受診した。結果は流産だった。流産というのは確率が高く、妊娠した女性の十五パーセント、およそ六から七人に一人は流産になってしまう。そのほとんどは、受精卵にたまたま染色体の異常があり、仕方がないと言っていいほどの確率なのだ。偶然に起こるので、何かをして防げるわけではないし次の妊娠で繰り返す確率は低い。■しかし、彼女は二度目の流産だった。去年妊娠検査薬を買って妊娠反応が出たにも関わらず、すぐに生理が来てしまったという。それは化学流産といい、妊娠反応が出てから胎嚢が確認される前に妊娠反応だけで終わってしまうものである。化学流産はとても高い頻度で起きるので気づかない人も多いのだ。■繰り返し流産することを不育症と呼ぶ。不育症の原因は、抗リン脂質抗体症候群という疾患で、血栓ができ赤ちゃんへの血流を阻害してしまうものなどが挙げられる。その場合、不育症のクリニックに通い血液をサラサラにするアスピリンの内服と、ヘパリンの在宅自己注射が必要となる。■流産の多くは、胎児の染色体異常などで仕方なく起きてしまうので、不育症だと診断されて治療をしたとしてもしなかったとしても出産できる確率はどちらも八十パーセント以上なのだ。流産を繰り返すというのは、心に大きな傷を残したりストレスの原因にもなるが、それでも赤ちゃんを産んで育てられるという気持ちを持ち続けることが大切なのだ。●カノンさん(高3)の要旨要約■

□7人の子どもたちと⑦ ～夢膨らむ♡受験生二人と“母の会社の設立”～

今年も残り後約1ヶ月！1年って本当に早い！！今年、我が家には受験生が2人。中学受験と高校受験。長男は先月まで希望校が決まっていたが、今月に入り、希望校よりワンランク上の高校を目指すことに変更！長男は、その高校に入るにはまだ努力圏です。なのに、受験生としてはマイペースで全然危機感感じません。確か、中学受験の時もそうでした。受験するのは息子自身なので、親の私ができることは、健康を維持させること、ストレスのない環境を作ることかしら。そして、長女はというと長男と正反対でとてもピリピリ感満載！長男が中学受験した時の学校を受ける予定です。毎日塾へ行き受験勉強、朝早く起きて勉強しています。そのため、ストレスから来ているイライラ感、親への反抗、兄弟への八つ当たりも目立ちます。この時期は仕方がないのかしら～時々注意するも逆効果。なので、もう受験が終わったら変わることを願って、私も必要以上なことは言わないようにし見守っていくことにします。■と同時に、私は自分の会社を設立しました。児童発達支援事業で未就学児の、重心身障者児のケアをします。ちょっと前までは、デイサービスと呼ばれていましたね。来年の夏前あたりのオープンに向けて準備を進めています。障害児のケアを学ぶために週2日は放課後等デイサービス(重心専門)で、悪くも良くもという状況を学びながら働かせて頂いています。そのため、ま～～～我が家はとんでもないことに落ち着かない状況です。いつもかっ…笑笑。週2日は帰りが遅くなるため、当初は、延長をお願いしていたが、じいちゃんばあちゃんがみてくれるということなので、甘えさせてもらい、幼稚園組をお迎えに行きじいちゃん、ばあちゃんに預けてから出勤。帰りはもちろん19時になることも。あ～、疲れたから、夕飯は買ってくるかな～と甘えそうになったこともありましたが、そうになってしまうと、金額が…。なので、頑張っって作っています。本当に疲れて動けないときはスーパーにお世話になることはもちろんありますが、忙しくても手料理を食べさせる!という思いの方が買っちゃいますね。さあ～～！あともう少しです。頑張れ受験生達！頑張れ私！

●中3・中2・小6・小5・小2・年長・年中のお母さんからの VOICE ■7人の子どもたちのうち二人が受験生です/子育て奮闘記を「ブログ」に連載中ですので御覧ください

○予告○2023年 千の声 VOICE 秋号 特集 (夏頃読書会を開催予定)

●『東條英機歴史の証言 東京裁判宣誓供述書を読みとく』 渡部昇一/祥伝社

昭和23年刊行後、GHQにより発禁処分とされた東京裁判における東條英機・宣誓供述書。その原文を全掲載、詳説。GHQが封印した歴史の真実、そして日本人が知っておくべき本当の「昭和史」を紐解く。



<<石川塾の肝心要 ～生きていくための要旨要約～>

□記述力を身につける“20+200 字”要旨要約文(齋藤孝『理想の国語教科書』青版/赤版/緑版より)

■菊池寛「勝負事」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**祖父が賭け事で財産を失ったが、最後は孫と遊んでいた話。**

本文抜粋:父の枕元でいつまでもぐずぐず駄々をこねていました。「やってやりたいのは山々じゃ。が、貧乏でどうにもしょうがないんじや。お前のお祖父さんが勝負事で一文なしになってしまったんじや」祖母が、死ぬ間際になって、「一文なしの水呑百姓になってしまったのも、わしゃ運だと諦めて、せめて、博打は一切打たんという誓言をきいて死にたい」何でも祖父が死ぬ三月ぐらい前のことです。「今度は、俺が勝ちだ」と、いいながら祖父は声高く笑ったそうです。●セイアさん(小5)の要旨要約■

■中島敦「名人伝」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**紀昌が、天下一の弓の名人になるために師の飛衛を殺そうとするが相打ちになって、和解する話。**

本文抜粋:今や己に敵すべき者は、師の飛衛をおいて外に無い。天下第一の名人となるためには、どうあっても飛衛を除かねばならぬ。一日郊野において、飛衛に遇った。紀昌が弓を取れば、飛衛も弓を持って相応ずる。互いに射れば、矢は相当たり、地に落ちた。飛衛の矢が尽きた時、紀昌は一矢余していた。紀昌が矢を放てば、飛衛は咄嗟に鍬を叩き落した。紀昌の心に、慚愧の念が、湧き起った。飛衛の方では、安堵と己が技倆の満足が、敵に対する憎しみを忘れさせた。●コウタロウ君(中5)の要旨要約■

■ブルフィンチ「ギリシア・ローマ神話」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**ミダス王が、触れた物を金にする力を神から手に入れ、その後後悔して元に戻してもらうが、神々の音楽の勝負の判定に文句をつけロバの耳にされる話。**

本文抜粋:ミダスは、この黄金の中の滅亡から救って下さるように祈りました。ディオニュソスは祈りを承知しました。ミダスは森林の神なるパンの崇拝者となりました。パンの神は、琴の神アポロンと音楽の競技をしようと挑みました。山の神トモロスは、琴の神を勝ちとしました。ミダスは、故障を申し立てました。アポロンはこんな耳に人間の形をさせておきません。長い耳に拡がらせ、毛をはやさせ、驢馬にたがわぬ耳になったのです。●コウタロウ君(小5)の要旨要約■

■G・ガルシア＝マルケス「百年の孤独」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**ホセが氷を初めて触りびっくりした話。**

本文抜粋:人ごみで見失わないようにふたりの子供の手をひき、メルキアデスを探し歩いた。メルキアデスがいつもテントを張っていた場所へ来たが、そこに立っていたのはジブシーだった。「メルキアデスは死んだよ」「こいつは世界最大のダイヤモンドだ」大男が誤りを指摘した。「氷ってもんだ、これは!」それから氷を手へのせ二、三分じっとしていた。氷塊を手にあずけ、聖書を前に証言でもするように叫んだ。「こいつは、近來にない大発明だ!」●リホさん(小5)の要旨要約■

■G・ガルシア＝マルケス「百年の孤独」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**ホセは初めて氷に触れ、近來にない大発明だと叫んだ話。**

本文抜粋:飲めば姿が消えるという薬を宣伝している、ジブシーのいる場所へ来た。群衆を掻き分けて質問したときには、男はすでに液体を飲み干していた。やがて悪臭と煙に姿を変え、こう答える声だけが残された。「メルキアデスは死んだよ」大男が海賊の宝箱めいたものの蓋をあけると、冷たい風が吹きあげた。「こいつは、世界最大のダイヤモンドだ」大男が誤りを指摘した。「氷ってもんだ、これは!」ホセ・アルカディオ・ブエンディアは叫んだ。「こいつは近來にない大発明だ!」●セイナさん(小6)の要旨要約■

■福沢諭吉「福翁自伝」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約:**緒方塾の共同生活について語る話。**

本文抜粋:およそこういう風で、外に出てもまた内にいても、乱暴もすれば議論もする。これまで枕をして寝たことがなかった。同窓生は大抵みなそんなもんで、およそ勉強ということについては、実にこの上に為ようはないというほどに勉強していました。ヒョイと起きて書を読む。夜明けまで書を読んでいて、台所の方で塾の飯炊きがコトコト飯を焚く支度をする音が聞こえると、それを合図にまた寝る。大抵緒方の塾に居る間ほとんど常極まりであった。●リホさん(小5)の要旨要約■

■サン＝テグジュペリ「人間の土地」(齋藤孝『理想の国語教科書』第2巻赤版より)

一文要約:**サン＝テグジュペリの僚友がアンデス山脈の飛行機事故で行方不明になったが、自分の死体を発見してもらえるところまで歩こうとした話。**

本文抜粋:寒気の中を、足も、膝も、手も、血まみれにしてきみは前進した。歩き続けているともう睡眠しか望まなくなる。拳闘選手が取り返しのつかない十秒目まで、落ちていくのに似ていた。僕は休むたびに必ず何ものかを置き忘れた。手袋、時計、ナイフ、磁石。あの数分間、心臓にすがりついた。頑張れ!メンドサのあの病室で、息苦しさうな眠りに落ちていった。彼の真の偉大さは、自分に対する責任を感じるところにある。郵便物、待っている僚友、彼の職業の範囲内で人類の運命に対する責任があった。●アツト君(小5)の要旨要約■

国語は朗読暗唱♥要旨要約♥読解♥記述♥

■音読コース■

- 石川塾オリジナルテキスト♥～朗読暗唱編～ 幼稚園生から“石川塾長えりすぐり 20 編”で朗読暗誦スタート♥

「雪」「少年」「徒然草」「方丈記」「平家物語」「奥の細道」「枕草子」「学問のすゝめ」ほか

- 『齋藤孝の小学国語教科書 全学年・決定版』(致知出版社) 2022年度より新しい国語の教科書を導入♥



音読力をつけよう8編/速音読トレーニング12編/感性を磨こう【詩・歌】20 編/
国語の世界を味わおう①【日本文学・歌・評論】33 編/国語の世界を味わおう②
【世界の名作文学】20 編/自分の気持ちを伝えよう①【手紙・日記】6 編/自分の
気持ちを伝えよう②【演説・宣言】7 編/言葉の魅力を味わおう【和歌・漢詩】10 編
考える力をつけよう【哲学】5 編/もう一段上の日本語力 16 編

- 学年の漢字読み辞書引き学習♥1 週間毎に10文ずつ音読で覚えチャレンジテスト♥

1年生から6年生までの 350 文と四文字熟語 200 個を音読し漢字混じりの文が読めるように…

■齋藤孝の 4 つの書くコース■



- 『齋藤孝のイッキによめる! 名作選』全 7 冊(講談社)

さくらももこ・宮沢賢治らの作品を読んだら“クイズに挑戦♥”ノートに書きこむ♥
10 ミリ方眼罫ノートに原文をそのまま抜き書きして答えるテクニック♥



- 『読解力がグングンのびる! 齋藤孝のゼッタイこれだけ! 名作教室』全 10 冊(朝日新聞出版)

夏目漱石や星新一を読んで”好きな文章ベスト 3 “を抜き書きする♥
読解のポイントや解説と一緒に読めて難しそうな名作もスラスラ読める♥

- 『理想の国語教科書』(齋藤孝/文藝春秋) ※青版/赤版/緑版

一篇ずつ読んで一番大事だと思う箇所に桃色鉛筆で線を引く。次に一篇をひと言
40 字程度に「～が～をする話」または「～が～になる話」にまとめる。さらに本文を
そのまま抜き書きして200字でまとめる。

♪ 全 3 冊 86 篇提出者に 5000 ポイント進呈。

- 『使える!「徒然草」』(齋藤孝/PHP 新書)

『徒然草』を上達論として読み解く齋藤流の古典活用法が披露された本書。『徒
然草』から 18 の段を取り上げ古典を現代に生かす事例が豊富で受験向きのテキ
ストとして石川塾では活用している。一編を 400 字詰原稿用紙4～8枚程度にま
とめる。みるもおもしろくよろずのようにもたちて……すぐに使える! 実用書



体験授業は 3 回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。
お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾

◎ステップアップのための漢字・算数・数学検定◎

■通常授業はもちろん夏期・冬期・春期講習で対策を♡

お申し込み時に過去問とチェック&リピート表をお渡しします♡●家でもどんどん勉強できるよう取り組み方は授業で伝授します♡●漢字検定は学年に関係なくどんどんチャレンジしよう♡●算数・数学検定は1学年・2学年上の級にチャレンジしよう♡●

大人の方の受検もサポートいたします♡●過去問とチェック&リピート表をお渡しします♡●検定料と施設費(@1500/月)で過去問のコピー無制限♡●

漢字検定3級以上取得すると高校入試で内申点が加点されます♡♡

○夏季・冬期・春期講習特別プラン○

□漢字検定🌸は2時間×3日間で学年の漢字読み・書き・書き順攻略♡●

更に、2時間×3日間で過去問攻略♡●

□算数・数学検定🌸は2時間×6日間で苦手克服・過去問攻略♡●

●2023年～2024年<石川塾>検定試験日程●

漢検の日程	数検の日程
2023/6/24/土曜	2023/3/4/土曜
2023/10/28/土曜	2023/6/9/土曜
2024/1/20/土曜	2023/9/30/土曜



お申し込み・お問合せは石川塾まで♡電話 042-710-5768

□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と遊ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山海浜を歩き土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月/家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいっぱい/教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます■「町田 読み書き算数塾 石川ゼミ」検索■

●スタッフ・浅沼花音からのVOICE●日ごとに寒さがつのって参りますがいかがお過ごしでしょうか。私はこの1年を通して生徒の学習のサポートを含め「コウノリ」の要旨要約や教材作りに携わってきました。「コウノリ」の要旨要約では、話の中で「著者が伝えたいこと」を汲み取り、それに伴う必要な文章はどれなのかを意識して要約することを心がけました。今後ともよろしくお願いします■

●編集長・渡邊光樹からのVOICE●文明崩壊を防ぐには環境破壊を防ぐ必要がある。一般市民である個人が環境問題に敏感であり声をあげるにより企業の環境保護に対する態度を変えることができる。過去の文明が崩壊した例には環境破壊の中に必ず森林破壊が関係している。文明を持続可能にするのは、森林を持続可能な状態で維持する一般市民の声であり意識であり行動である。石川塾物語の中の講座にくふるさとの森をふるさとの木で>がある。“4000万本の木を植えた男”宮脇昭の書を是非一度読んでほしい。身近な森を意識し声をあげ行動をおこしてほしいと願って■

□ホームページの「new 体験学習ガイド」欄に(俳句と写真■写真:kumi■/幼児教室/石川ゼミ/国語専科)を掲載しています

●編集兼発行人・石川剛からのVOICE●今回皆さんにお薦めの章は追記「アンコールの興亡」をめぐる謎/特にその壮大な治水システムである/1994年にスペースシャトル“エンデヴァー”から得られたアンコール最初のレーダー映像は/1990年代の徹底的な現地調査を受けて/2000年NASAジェット推進研究所が行った機上レーダー探査で大幅に拡張され/アンコール大都市圏の中核部千平方キロの高精細地図ができあがった/壮大な治水システムであった/このシステムの一番明確な目的は「リスク管理」だったと著者は云う/そしてアンコールの崩壊を招いたものはなんだったのか/五つの要因の一つに気候変動(洪水と旱魃)があり/それが樹齢九百七十九年の年輪記録によってあっさり解明されたとある・・・■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2023年 新年号「千の声 VOICE」第18号>令和5年1月1日発行■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く■☎042-710-5768